

# 平成23年度の予算編成方針について

## 1 本市を取り巻く社会経済情勢と本市の財政状況

### (1) 社会経済情勢と国の予算の動向

我が国の経済状況については、景気は持ち直してきているといわれるものの、デフレや高水準の失業率などの影響により依然として厳しい状況にある。また、今後についても、昨今の急激な円高や株価の動向など、先行きが不透明な状況である。

こうしたなか、国においては「新成長戦略」「財政運営戦略」を踏まえ、平成23年度予算は経済成長や国民生活の質の向上の実現に向け、ムダづかいの根絶の徹底や不要不急な事務事業の大胆な見直しにより新たな政策・効果の高い政策に重点配分を行う財源を確保することが必要であるとしている。また、地方財政についても国の財政運営の基本ルールと歩調を合わせる一方、歳入について地方交付税などの一般財源総額は平成22年度を下回らない水準で確保するとしているが、国の予算編成、税制改正等の動向に不確定要素が多く、予断を許さない状況である。

### (2) 本市の財政状況

平成21年度一般会計は黒字決算とはなったが、財政調整基金等の基金の活用や臨時財政対策債等の発行によるところが大きな要因であり、事業の精査、効率的な執行等経費の節減に努めたものの、抜本的な財政の健全化が図られたものとはいえない。今後も歳入の根幹をなす市税について大きな伸びは見込めず、その他使用料等も含めた自主財源の割合が低下してきている状況にあり、歳出面においても、社会保障関係費や公債費などが高水準で推移しており極めて厳しい財政状況にある。

こうしたことから、平成23年度の予算編成については、本市を取り巻く極めて厳しい現状を市職員全員が改めて認識した上で、限られた財源で最大の事業効果を発揮するよう創意工夫を凝らし、次に掲げる基本方針に沿って取り組むものとする。

## 2 予算編成の基本方針

現下の厳しい財政状況においては、事務事業のゼロベースからの見直しによる徹底したムダをなくす取組みと、今後、行政が担うべき役割を見直すことによって持続可能な財政構造を構築することが最重要課題である。

平成23年度は、今後10年間の市政運営の基本方針を示す第4次総合計画（案）の初年度となることから、この計画の目指す都市の将来像である「豊かな環境と交流、活力に満ちた暮らしのある世界の古都奈良」の実現に向け、重点戦略をはじめとする基本施策の具体的な推進を図るものとする。

このことを踏まえ、次の考え方に基づき予算編成を行うものとする。

### （1）ゼロベースでの経費見直し

既存事業の経費見直しに当たっては、民間委託化や市民との協働等の方策を検討するとともに、事業仕分けの視点により廃止も含めた抜本的な見直しを図ること。また固定的経費についても従来の発想にとらわれることなく再検討し、財源の捻出に努めること。

### （2）即応性と柔軟性の確保

住民サービスの向上のため、地域や住民のニーズを迅速かつ的確に把握するとともに、新規事業の創出や既存事業の再構築においては、その実施手法についても柔軟に検討し、最少の経費で最大の効果を生み出すよう努めること。なお、新規事業の財源については、原則として既存事業の廃止や他の経費の節減、国等の施策・制度の活用により捻出すること。

### （3）年間総合予算の編成

社会経済情勢の推移、国・県の予算編成、地方財政措置の動向を見極め、国・県の新規施策や補助制度等、多様な財源を積極的に活用し、的確な財源見通しのもとに年間総合予算を編成すること。

以上の方針に基づき、各経費の見積りに当たっては、別途指示する予算編成要領により精査した上で行うものとする。

## 第4次総合計画基本構想（案）

### 《都市の将来像》

豊かな環境と交流、活力に満ちた暮らしのある世界の古都奈良

### 《まちづくりの基本方向》

- 1．時を超えた歴史と自然を守り、活かし、伝えるまち
- 2．観光をはじめとするビジネスモデルの創造による活気あふれるまち
- 3．歴史と未来、都市と田園が共生する持続可能なまち
- 4．いつまでも子や孫が笑顔で暮らせるまち
- 5．世代を超えて市民が力を出し合い、つながりを育むまち
- 6．市民と行政が協働する健全な財政によるまち